スパコン「京」活用法探る

岡山大でシンポ　生命科学分野の研究

計算速度世界一のスーパーコンピューター「京」の応用について意見交換したシンポジウム＝岡山大

スーパーコンピューターで計算速度世界一となった理化学研究所（神戸市）の「京」の生命科学分野での活用法を探るシンポジウム（岡山大主催）が1日、同大津島キャンパス（岡山市北区津島中）であった。京の能力を自らの研究にどう生かせるか、研究者が意見交換した。

岡山、広島、鳥取3県の大学教授や学生ら約100人が出席。同研究所の木戸善之研究企画担当が、毎秒1京回（京は1兆の1万倍）を超える計算能力を利用した新薬開発や地球変動予測といった成果を紹介した。共同研究を考える技術者や研究者を対象に講習会を開いていることも説明した。

引き続き、13人の大学教授らが登壇し、自らの取り組みと京を活用した可能性について発言。植物の光合成による水分解反応機構の解明を進める岡山大大学院の沈建仁教授（生化学）は「エネルギー変化の過程などを分析する際、膨大な計算が必要。京を利用すればより正確なデータが得られるだろう」と話した。（山本友志）

2012年6月2日 山陽新聞朝刊 28ページ　(C)山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。